

新座の配送センター 倉庫改修工事が完了 効率運用で機能最適化

大木伸銅

大手黄銅棒メーカーの大木伸銅工業（本社）は東京都板橋区、大木宗治社長はこのほど、新座工場（埼玉県）で配



天井クレーンや出入り口を増設した倉庫

送センターの倉庫の改修工事が完了した。天井クレーンを増やしたほか、大型トラックも

通れる車両の出入口を増設。東京支店の在庫品だけでなく、ほかの支店が扱うひも付き品も保管し、同社の在庫、配送の中心拠点として効率的に運用する。改修にかかった費用は約1000万円。年初に販売子会社の

大木伸銅産業を吸収したのに伴い、工場外部にあった産業の東京支店倉庫を工場の倉庫に統合。倉庫を管理する部署として、組織変更により新しく配送センターを設立した。

工場の倉庫は従来、高崎、宇都宮、諏訪の3支店で扱うひも付きの直送品などを在庫していた。そこに東京支店の小口在庫販売用が加わり、構内の在庫量が増加。在庫販売用とひも付き用を合わせ、1500〜2000トンを在庫している。

このため、構内作業や出荷を効率的に行えるよう改修工事を行った。配送センターは倉庫内の事務所で、在庫管理や在庫販売の受注対応を行っている。ひ

も付き品の配送を担う生産管理部との連携も今後模索し、グループの在庫、配送機能の最適化につなげたい考えだ。